

集団主義がもたらす SNS の使用法への影響

概要

近年、SNS の普及が進み新たなコミュニケーションツールとして大きな役割を担うようになった。SNS によって共通の趣味を持つもの同士が集まることや同窓会の開催が容易になった。この SNS を通じた新しい形のコミュニティの形成及び活動は、活動の主体が集団主義という世界観を持っていうかどうかによってその頻度や形式を変えるのではないかと、という仮説を立てた。アンケート質問を作成し、集団主義をどの程度重視しているか、SNS を使った活動に積極的かどうかを問い、仮説の検証を行なった。その結果集団主義の世界観を重視する人ほど、SNS を通じた活動に積極的に参加することが分かった。これにより、集団主義という世界観が人々の活動、この場合は SNS を通じた経済活動に影響を与えると考えられるため、集団の規範や目標の設定などによって集団に所属する人々の活動を変化させることが言える。この仮説が正しければ、集団主義という世界観から SNS の産業としての経済発展を、また今後の SNS 市場の動向を予測することが可能になる。

1. はじめに

産業革命以後、人々は資本主義に組み込まれ経済が大幅に発展するにつれ個人が自由に物質的幸福を追求するようになっていった。日本も戦後の高度経済成長を契機に先進国の仲間入りをし、人々がリバタリアンの性格を帯び始め、核家族化が進んだことで家庭が崩壊し始め、出生率の低下などの少子高齢化問題も登場した。そうした変化に伴って日本が伝統的に保持していた「イエ」「ムラ」といった自然的な共同体意識は薄れていったが、個人・自由を重んじるアメリカに比べて家族的経営で経済成長を遂げた日本は共同体意識が依然として高いと言われている。

一方、インターネットや携帯電話の普及によりグローバリゼーション、情報化社会が進行し、国内中だけにとどまらず世界中の人々との交流、情報交換が可能となった。そんな中登場したのが mixi や Twitter、Face book といったような SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) である。SNS は誰でも気軽に始められ、小学校の友人など以前では途絶えていた友人関係を再び構築することや、同じような趣味を持つ人々同士でつながりを持つことを可能にした。いままででは考えられなかった新たな共同体を形成したのである。また、SNS を利用しての OFF 会や同窓会など経済行動への結びつきも見られるようになった。

以上の事から「集団主義の度合いが強いほうが積極的に SNS を使用して他者とのコミュニケーションを図る」という仮説をたてた。この仮説の重要性は、SNS が発展しそれに伴った経済活動が増えていくか、その産業の発展の可能性を、人々の世界観から判断できる

よくなるということである。

なお、集団主義を以下のように定義した。集団主義とは、内集団との親密なつながりであり、集団を単位として全ての集団構成員が同質の目標・義務・規範を持ち、「集団は自分に何を期待しているか」が自己を形成する重要な要素とする考え方である。また、集団主義も法律や政策に関わる文化レベル（国や社会）のものとひとりひとりのものがあり、今回は後者に焦点を当てた。

2. 研究方法

研究は学生を中心にアンケートをとった。理由としては第一に SNS を他の世代に比べて頻繁に利用しており、個人間での差が顕著に表れると思ったためである。第二に、学生ならば短時間で多くの標本数を得られると思ったためである。

仮説を検証するために、紙媒体のアンケートを使ってデータを集めた。アンケートの項目は、集団主義の強弱（説明変数）と SNS の使用（被説明変数）に関するもの計 10 個の設問からなる。質問内容は以下のとおりである。

- Q1. 1日にどれくらいコンピューターを使いますか？
- Q2. 1日にどれくらいインターネットを使いますか？
- Q3. 1日にどれくらい SNS を使いますか？
- Q4. 趣味や体験は仲間と共有することでより充実したものになると思いますか？
- Q5. 人は相互依存的ではなく、他者とは独立して人生を歩むべきであると思いますか？
- Q6. 家族や友人と過ごす時間と 1人で過ごす時間、あなたはどちらが大切ですか？
- Q7. チームスポーツにおいて個人成績とチームの勝敗のどちらを重視しますか？
- Q8. グループ課題に積極的に貢献できますか？
- Q9. SNS を通じて共通の趣味を持つ人と会うことはどのくらいあるか？
- Q10. SNS を通じて小学生の頃の友人と会うようになったか？

Q4~Q8 は説明変数について Q1~Q3, Q9, Q10 は被説明変数についての設問である。このうち Q1, Q2 は直接の SNS の利用を問うものではないが、インターネット利用において SNS 使用が占める割合や、各個人のコンピューター利用頻度の違いが SNS の利用に与える影響を考慮したものである。

アンケートの回答について、Q1~Q3 は時間（単位：分）を記入してもらいその数そのまま変数とする。Q4~Q10 は下図記入例のように線分上に回答者が当てはまると思う位置を書き込むようにして集計し、右端からの距離（ $0 \leq x \leq 9$ ）を取りその値を変数とする。

得られた数値から回帰分析を行い説明変数と被説明変数の関係性を調べる。

※記入例

そう思う

そう思わない

3. 結果と考察

アンケートは今回の調査はパイロット調査ということもあり、34人という小規模なもので行なった。しかし、その中でも集団主義の度合いの強さと SNS の使用法の間には一定の関係性を発見することができた。すなわち、Q3、Q9、Q10 のいずれにおいても有意な結果が得られた。今回集団主義の度合いは Q4~Q8 の数値の合計したものとし、値は最大で 45、最小で 0 となり、大きければ大きいほど集団主義の世界観を強く持っているとした。

まず、SNS の使用時間について考察するために Q3 の質問の結果と先ほど定義した集団主義の度合いについて回帰分析を行なった。回帰分析をする前に立てた仮説は、集団主義の度合いの強い人ほど積極的に SNS を使用するため使用時間は必然的に長くなる、というものだった。SNS を使用してコミュニティの形成や

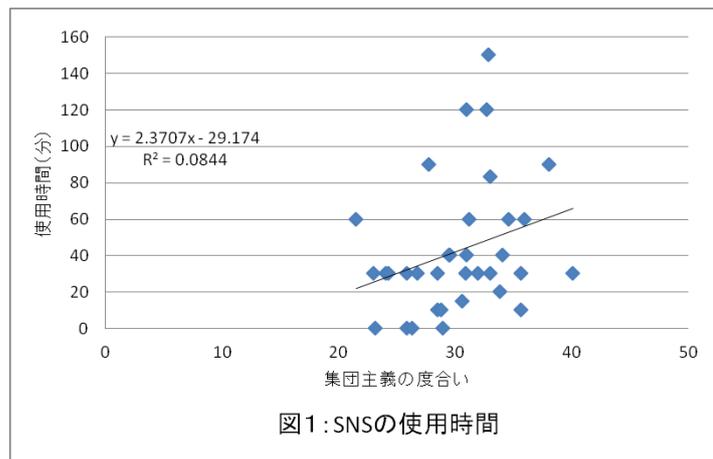


図1: SNSの使用時間

コミュニケーションをするわけであるが、これらの活動には SNS 上においてチャットの時間が必要なため使用時間はその頻度によって多くなり SNS にかける時間も多くなるからである。

回帰分析の結果は予想通りの結果が得られた。つまり、集団主義の世界観が強い人ほど長い時間 SNS を使うことが分かった。また、P 値は 0.095 と得られたため片側検定を行うと 5% で有意という結果が分かり、SNS の使用時間は集団主義の度合いによって定まるといえる。

次に共通の趣味を持つもの同士が SNS を通じて実際に会うことがあるか、つまり OFF 会などといった活動をするかが集団主義の度合いによって異なってくるかを調べた。共通の趣味を持つもの同士で SNS

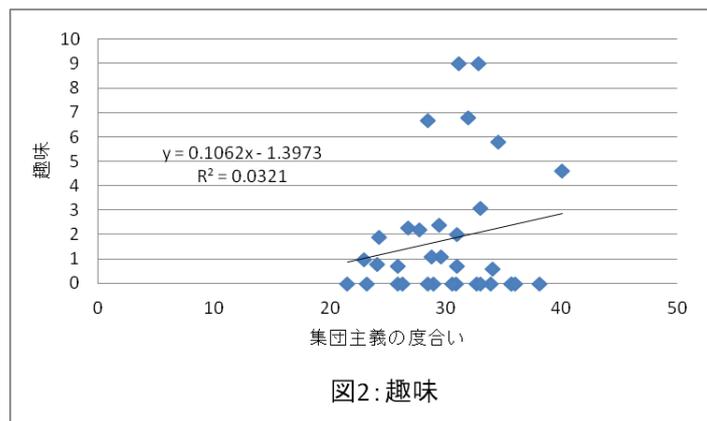
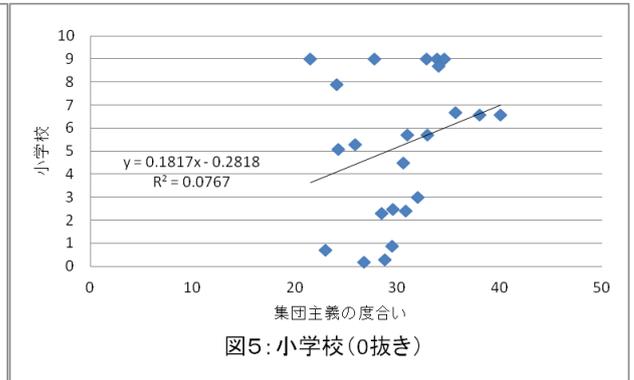
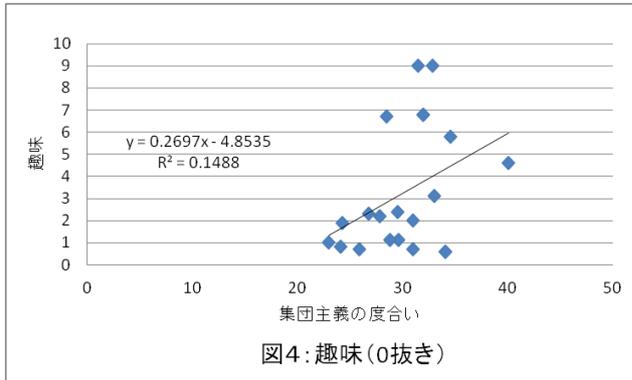


図2: 趣味

彫りとなった。



4. 結論

集団主義は SNS の使用方法に影響を与え、集団主義の傾向が強いほどより積極的に SNS を通じたコミュニケーションに参加すると言える。SNS は情報収集のコストを下げることによって今までに無かった、小学校の同窓会や OFF 会といった活動を可能にした。人々の集団主義の傾向が強まるほど連帯の意識などが強まり、この産業の発展可能性が高まると言える。今回のアンケート調査ではスポーツ観や人生観などの集団主義的世界観を混合して行なったが、趣味などの場合は各個人が重きを置く分野によってその活動の傾向が異なってくるかもしれない。また、OFF 会や同窓会以外の SNS の活用方法が集団主義の世界観に影響を受けている可能性もある。アンケートの項目の精査によって集団主義の定義や SNS を用いた活動の種類を増やすことで、より具体的な集団主義と SNS の使用法の関係性を見つけていきたい。

参考文献

Harry C. Triandis, 1995. *Individualism and collectivism*, Westview Press, Inc, U.S.

(H.C. トリアンディス, 神山貴弥・藤原武弘(編訳), 2002. 個人主義と集団主義 2 つのレンズを通して読み解く文化, 北大路書房)

日本経済新聞 2011/12/07 夕刊 9 ページ 「第二の人生は旧友と、団塊世代、同級生と復縁」